

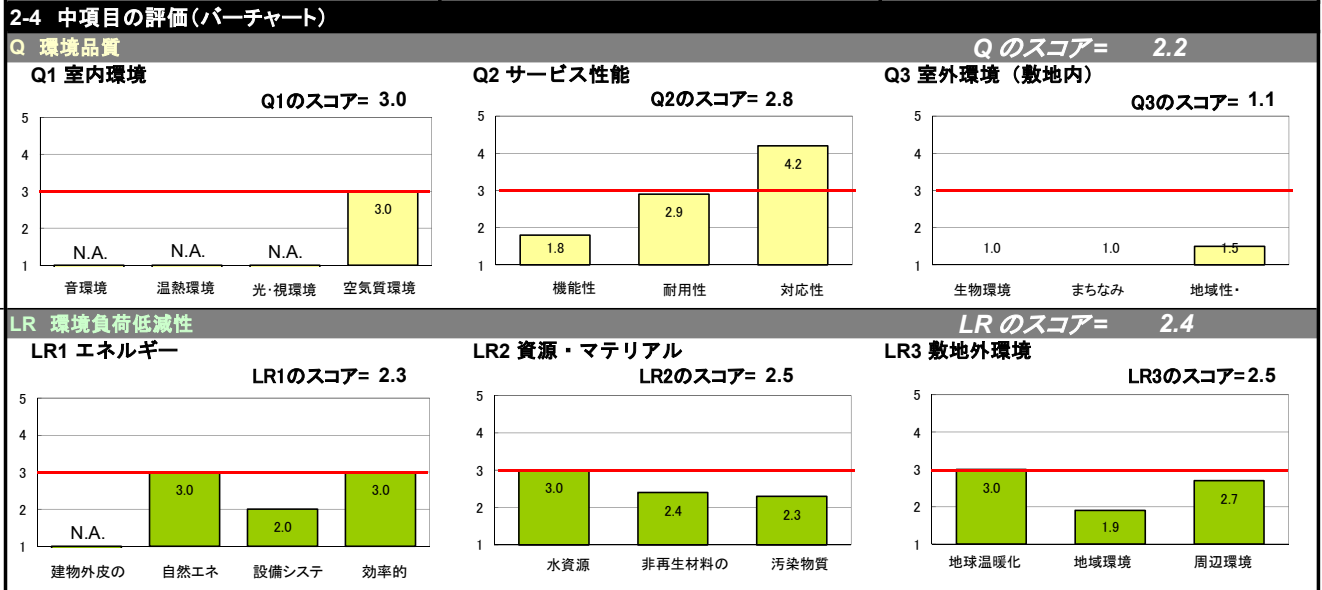
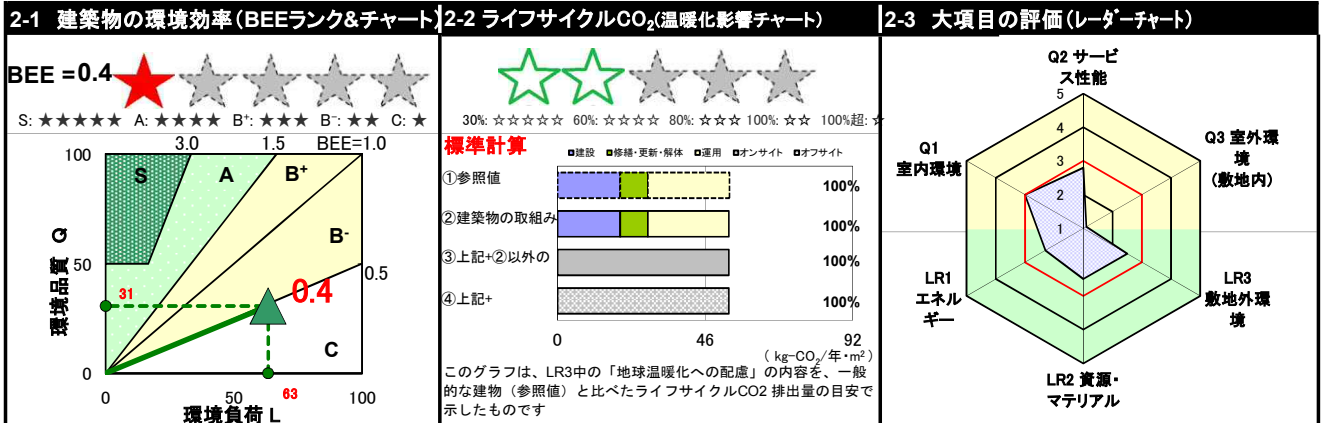
建築物名称	(仮称)センコー(株)田子の浦PDセンター新築工事
受付日	平成29年4月5日
建物所在地	富士市大野字大野南97番1他20筆
構造規模等	鉄骨造/地上4階/延床面積16,369.30平方メートル/新築
建物用途区分	事務所、工場
建築主	センコー株式会社 静岡支店長 前田龍宏
設計者	株式会社釣谷建築事務所 設計室 叶井雄太
工事完了予定日	平成30年2月28日

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)センコー(株)田子の浦PDセンター新築工事	階数	地上4F
建設地	静岡県富士市大野字大野南97番1他20筆	構造	S造
用途地域	都市計画区域(市街化区域)、工業・工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年3月31日
敷地面積	10,449 m <sup>2</sup>	作成者	橋本
建築面積	6,072 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	15,242 m <sup>2</sup>	確認者	



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	(仮称)センコー(株)田子の浦PDセンター新築工事	BEE	0.4	BEEランク	C	★

<b>2. 重点項目への取組み度</b>						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.5	/5				がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5				がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.0	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上	

<b>3. 重点項目についての環境配慮概要</b>		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。							
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点		2.5			
	■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備
						③	屋光制御
						④	躯体材料の耐用年数
Q-2	2	2.2	2.2.1	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
					④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
					④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
					④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
					④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
					④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
					⑧	自然エネルギー利用	
					⑨	設備システムの高効率化	
					⑩	モニタリング	
		4	4.1		⑩	運用管理体制	
			4.2		⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)	LR-2	1	1.1	⑪	節水		
			2	2.1	2.1.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
						⑪	雑排水等利用システム導入の有無
						⑫	材料使用量の削減
						⑫	既存建築躯体等の継続使用
						⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
						⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
						⑫	持続可能な森林から産出された木材
						⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
						⑬	有害物質を含まない材料の使用
						⑬	消火剤
						⑬	断熱材
						⑬	冷媒
		3	3.1	⑬	消火剤		
			3.2	⑬	断熱材		
			3.2.1	⑬	冷媒		
			3.2.2	⑬	断熱材		
			3.2.3	⑬	冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点		2.9			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
						⑯	免震・制振性能
						⑰	空調・換気設備
						⑰	給排水・衛生設備
						⑰	電気設備
						⑰	機械・配管支持方法
						⑰	通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点		2.5			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
	㉑階高=6.800~7.200 基準階の階高のゆとりを持たせている	3	3.1	3.1.1	3.1.2	⑲	階高のゆとり
						⑲	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1		㉒	地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点		1.0			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出
						㉓	まちなみ景観への配慮
						㉔	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善)	LR-3	2	2.2			㉕	温熱環境悪化の改善